

B班活動報告

「景気回復のために」という目標で財政政策、金融政策について泉ゼミC班と話し合いました。

財政政策について

< 泉ゼミ >

- ・消費税の減税より消費意欲を高める。
- ・公共事業では、政治家・官僚の癒着をなくす。
- ・社会保障については国民負担の引き上げを行う。
- ・失業者対策として次の就職先が見つかるまで

< 望月ゼミ >

- ・間接税の増税により財政の建て直しを行う。
- ・無駄な公共事業を廃止し、ITインフラ整備などのみに縮小させる。
- ・失業者対策として失業してすぐに失業保険がもらえるようにし、保障期間を約11ヶ月から1年半位に延ばしたほうが良いのではないか。

質問：「次の就職が見つかるまで保障したら、モラルハザードが起こるのではないか」としましたところ、回答：「これを書いたときは、まだ知識不足でした。言いすぎでした。」ということでした。

失業保険の期間については、議長団より、景気回復がまだ見えてこないということでのばすだけでは、ダラダラしてしまうのではという指摘を受けました。

金融政策について

< 泉ゼミ >

インフレターゲットはデフレ対策となり有効であるので採用すべきである。

< 望月ゼミ >

インフレターゲットは採用すべきではない。インフレターゲットの有効性は認められるが、政府の能力があるとは言い切れないのでリスク（インフレが止まらなくなりスタグフレーションにおちいること）を考えると、リスクをおかしてまで採用するべきではない。問題はマネーサプライが伸びないことなので、まずは不良債権の処理が先決である。

失敗した場合は？

< 泉ゼミ >

消費税減税、インフレターゲット導入によりデフレ改善できなかつたら財政破綻、日本経済の破綻につながる。賭けではあるけれど、痛みを伴わない私たちにとっては理想的な方法である。

<望月ゼミ>

増税により消費減退を引き越したら、経済にとって悪影響を及ぼすが減税よりもリスクは少ない。

最終的なまとめ

<泉ゼミC班>

景気回復のためには、財政政策として減税を行い、家計の需要を増やす。金融政策としてインフレターゲットを採用しインフレ状態を作りデフレ改善させる。

<望月ゼミB班>

景気回復のためには、財政政策として増税によって財政を安定させる。金融政策として信用乗数低下の原因となっている不良債権を減らし、マネーサプライが伸びる状態を作る。

どちらに班も景気回復に向けてという方向性は同じであるが、政策手段は違っている。